

『進化する糖尿病治療』

インスリンアナログ製剤と新規経口薬の登場に加えて、さらにインクレチン関連治療薬の開発やCGMSの登場など糖尿病治療は新たな展開をとげつつある。本講演ではこのように進化する糖尿病治療をハード/ソフト両面から俯瞰してみたい。



第53回日本糖尿病学会年次学術集会
共催セミナー ランチョンセミナー

進化する糖尿病治療



ランチョンセミナー セミナー番号 No44

座長 久留米大学 医学部 内分泌代謝内科 山田 研太郎 先生

演者 兵庫医科大学 内科学糖尿病科 難波 光義 先生



約90年の歴史を有するインスリン治療も、開発から数十年経過したスルフォニル尿素(SU)薬とビッグナイド(BG)薬などを主軸とする経口薬治療も、それぞれの製剤面においてさまざまな改良が加えられてきた。さらに、昨年以降登場しつつあるインクレチン関連治療薬が新たなクラスに属する治療薬として、糖尿病の薬物治療にParadigm Shiftを起こそうとしている。一方、患者の血糖管理やモチベーション向上における必須のツールとして、すでにその重要性を確立した血糖モニタリングの領域でも、CGMS (Continuous Glucose Monitoring System)が、薬物治療をさらに洗練されたものへ昇華させるのではないかと期待されている。本ランチョンでは、このように急速な進化をとげつつある糖尿病治療をハード/ソフト両面から俯瞰してみたい。

開催日時 平成22年 5月29日(土) 12:00 ~12:50

会場 第7会場 岡山コンベンションセンター 2F 展示ホール

共催 第53回日本糖尿病学会年次学術集会/アボットジャパン株式会社

- ランチョンセミナーは予約制です。ご予約済みの方から優先的にご入場いただけます。
- 本セミナーへのエントリーは学会ホームページよりお申し込みいただけます。
- プログラム内容や時間や講師について予告無く変更される場合もございます。あらかじめご了承ください。

